

令和2年度

水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業
(北太平洋鯨類資源調査) 成果報告書

【受託者】

住 所 東京都中央区豊海町4番5号

氏 名 一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 目的

本調査は、北太平洋におけるミンククジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、ナガスクジラをはじめ、シロナガスクジラやセミクジラ等の希少種を含むヒゲクジラ類を中心とした鯨類の分布状況の把握、並びにその資源量推定のための目視情報の収集を目的として実施した。

2. 調査体制

水産庁長官が一般財団法人日本鯨類研究所に委託し、それに基づいて第七開洋丸（649 トン、海洋エンジニアリング株式会社所有）を用船して実施した。

3. 調査期間

8月5日	八戸出港
8月7日	調査海域到着、調査開始
9月11日	調査終了
9月18日	三崎入港

4. 調査海域

調査海域は、日本の排他的経済水域及び公海上における北緯35～43度、東経140～150度の範囲とし、また、予定より早く調査が進捗したことから、北緯30～35度、東経140～150度の範囲の一部においても調査を実施した。

5. 調査結果（表1）

目視調査の全調査期間における合計探索努力量（往復航海を含む）は2,058.4 哩、調査海域における探索努力量は2,034.4 哩であった。往復航海を含め、合計438群5,752頭の鯨類（イルカ類含む）が発見され、そのうち、種が特定できたものが18種（ヒゲクジラ類5種、ハクジラ類13種）であった。

自然標識の撮影はザトウクジラ1個体、シャチ4個体について実施した。

バイオプシーサンプルはイワシクジラ1個体、ナガスクジラ1個体、ザトウクジラ1個体から採取した

衛星標識はイワシクジラ1個体、ナガスクジラ1個体に装着した。

6. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所資源管理部門が保管する。本調査の詳細な結果は、IWC 科学委員会をはじめとする国際機関等において発表を予定している。

表 1. 調査海域内における種別発見群頭数及び調査実施頭数

鯨種	発見		自然標識撮影 (頭)	バイオペシー採取 (頭)	衛星標識装着 (頭)
	群	頭			
ミンククジラ	2	2	0	0	0
ニタリクジラ	141	176	0	0	0
イワシクジラ	2	2	0	1	1
ナガスクジラ	4	4	0	1	1
ザトウクジラ	1	1	1	1	0
マッコウクジラ	68	215	0	0	0
ツチクジラ	1	1	0	0	0
マダライルカ	13	555	0	0	0
スジイルカ	47	1,857	0	0	0
マイルカ	12	501	0	0	0
カマイルカ	10	452	0	0	0
ハナゴンドウ	25	201	0	0	0
ユメゴンドウ	1	6	0	0	0
マゴンドウ系コビレゴンドウ	2	25	0	0	0
タッパナガ系コビレゴンドウ	4	155	0	0	0
カズハゴンドウ	2	830	0	0	0
シャチ	1	4	4	0	0
リクゼン型イシイルカ	1	1	0	0	0
イシイルカ型イシイルカ	2	38	0	0	0
型不明イシイルカ	6	19	0	0	0
アカボウクジラ	1	1	0	0	0
合計	346	5,046	5	3	2